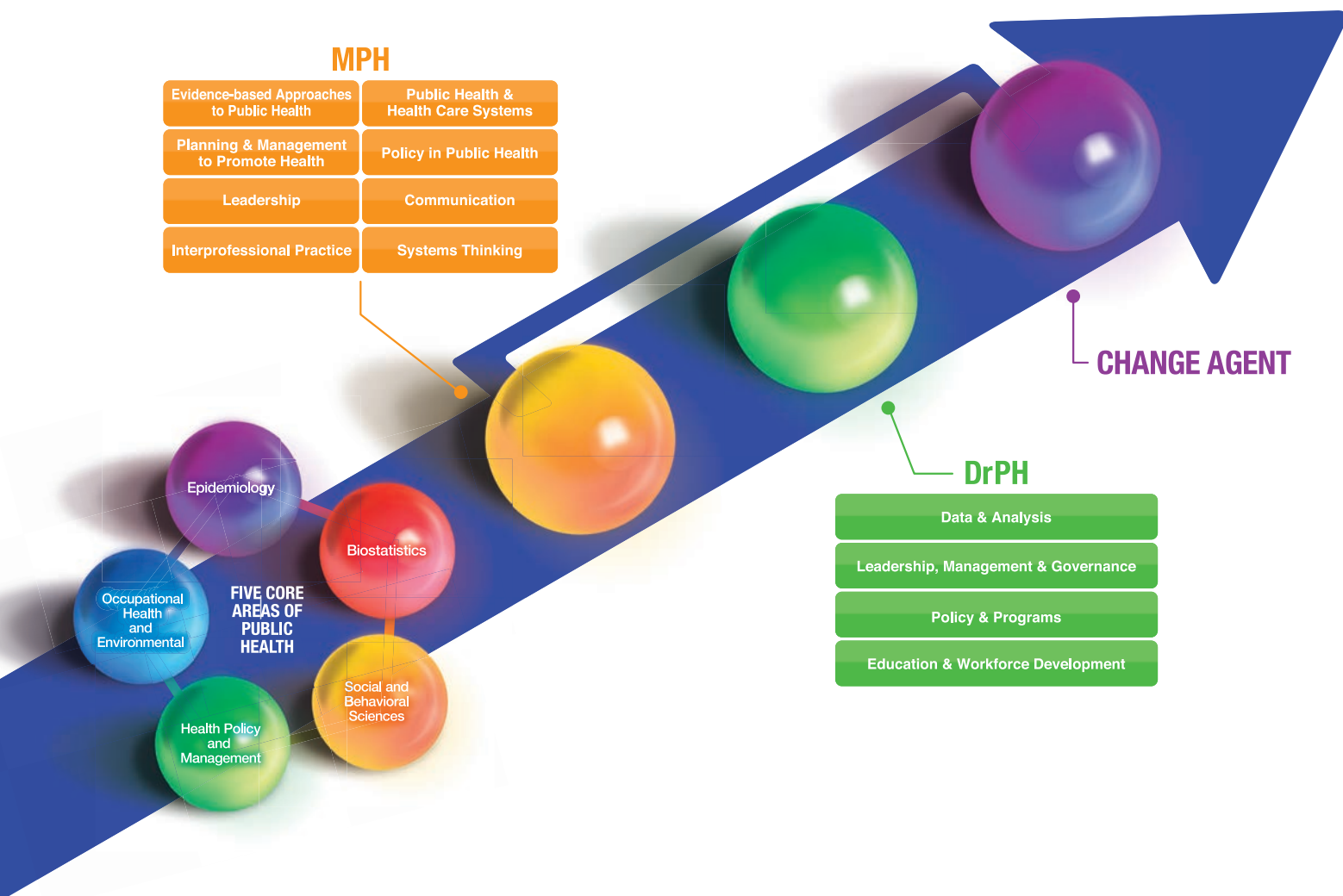


帝京大学大学院 公衆衛生学研究科

Teikyo School of Public Health

BE A CHANGE AGENT



専門職学位課程
MPH

博士後期課程
DrPH



TEIKYO

研究科長からのメッセージ

Message from the Dean

Marketing Public Health

これからも公衆衛生大学院 (SPH) のフロントランナーとして



帝京大学大学院公衆衛生学研究科 (帝京SPH) は、2011年4月に設置され、専門職学位課程を開講しました。Master of Public Health (MPH) に加えて、2014年4月にはDoctor of Public Health (DrPH) を取得できる博士後期課程も開講しました。わが国初の独立専攻の公衆衛生大学院 (SPH) のひとつとして設立された帝京SPHは、設置前の準備期間を入れて約10年、国内SPHのフロントランナーとして走り続けてきました。2022年度は在学学生77名を数えるまでになりました。修了生は200名を超え、国内外の公衆衛生の現場で活躍しています。

帝京SPHの特長は、ハーバード大学等との連携のもと、国際基準で必須とされる5分野 (疫学、生物統計学、産業環境保健学、保健政策・医療管理学、社会行動科学) を基本としたカリキュラム、21世紀の保健医療専門職の教育として必要とされるコンピテンシー基盤型教育を通じた問題解決のできる人材、すなわち、世の中や社会あるいは組織を変えることのできる“Change Agent”の育成です。さらに、海外講師によるハーバード特別講義や国際サマースクール、帝京大学産業環境保健学センター (T-COEH) と協働した産業保健高度専門職養成の大学院プログラム、医師の専門医制度に対応した帝京大学大学院・社会医学系専門医プログラムなど、スピノフの教育プログラムも充実させてきました。

私たち帝京SPHの役割は、一言でいえば“Marketing Public Health”、すなわち、公衆衛生を売り込み、広めることです。より具体的に、人々に予防・衛生に関する知識や行動を広め、実践してもらうこと (Marketing Public Health “Behaviors”)、人々の健康を

支援する公共政策を推進すること (Marketing Public Health “Policies”)、公衆衛生や保健福祉に関する研究を促進すること (Marketing Public Health “Research”) です。さらに、専門職大学院として重要なのは、高度なコンピテンシーを持つ公衆衛生の専門職を育成し、帝京SPHだけでなく、他のSPHや公衆衛生関連の教育機関での教育制度を充実させること (Marketing Public Health “Education”)、そして、育てた公衆衛生の専門職を、公衆衛生やヘルスケアのさまざまな場所に売り込み、彼らの活躍できる場を広げていくことです (Marketing Public Health “Professionals”)。

日本や世界の公衆衛生と保健・医療・福祉は常に大きな課題を抱えています。時代により問題は変化し、解決方法も一様ではありません。現在、そして将来の課題と社会のニーズに対応できるChange Agentsを育てるため、私たち帝京SPH自身も変化しながら、これからもトップスクールとして走り続けます。

Beyond the Crisis, Change and Challenge for Next Decades

帝京SPHは、2021年度に10周年を迎えました。奇しくも、2年前からのCOVID-19のパンデミックにより、世界中の人々、そして、公衆衛生は大きな危機に直面し、私たちは多くの変化が求められました。この大きな危機を乗り越えて、次の10年、そして、その後に向けて、帝京SPHは、挑戦と変化を続けていきます。

帝京大学大学院公衆衛生学研究科
研究科長 福田吉治

2023年度 入試情報

専門職学位課程 (MPH) (入学定員) 1年コース10名・2年コース20名
博士後期課程 (DrPH) (入学定員) 6名

	出願期間	選考方法・試験日	合格発表日	入学手続期間
第1回	随時	随時	9月16日(金) 9/1(木)までに面接を終えている場合	9月16日(金)～ 9月23日(金)
第2回			11月28日(月) 11/10(木)までに面接を終えている場合	11月28日(月)～ 12月5日(月)
第3回			1月13日(金) 12/23(金)までに面接を終えている場合	1月13日(金)～ 1月20日(金)
第4回	2023年 1月31日(火)まで	2023年 2月16日(木)まで	3月1日(水) 2/16(木)までに面接を終えている場合	3月1日(水)～ 3月7日(火)

Rolling admission (随時出願・随時選考方式を採用しています。入学定員に達した場合、以降の入試を行わない場合があります。)

● 研究科説明会 2022年7月16日(土)
2022年12月3日(土)

詳しくは 帝京SPH 検索



帝京SPHの教育

Education at Teikyo SPH

すべては人々の健康を守るために

帝京SPHは専門職大学院として、指導的立場で活躍し、科学的判断に基づく問題解決ができる高度専門職業人の養成をミッションに掲げています。それは社会と人々の健康を守るという公衆衛生そのものの目的を達成するためです。

■ まずは社会を見よ 人々の生命と生活を守るために

帝京SPHでは教育を通じて質の高い専門職を輩出することで、人々が健康で安全に生きられる社会づくりを目指しています。そのためには、まず社会を眺め、人々の声を聴くことを大事にしています。一人一人が感じた課題を発見して、それに取り組もうという意志と姿勢を持ち、社会で困難を抱える人々に共感する人であってほしいと願っています。

今までに私たちは経験したことのない社会に生きています。それは世界でも高齢化が進み、感染症と共に非感染性疾患が世界の多くの人の主要な疾病になるなど、疾病構造が変化しています。技術革新が進む中で医療も進化していますが、医療が高度になれば医療費も高騰します。他方、貧困により必要な医療が受けられない人もいます。こうした変化は既存の保健医療システム自体に影響を及ぼしており、今、こうした課題に立ち向かうことが公衆衛生に求められているのです。

あなたは人々の健康を守るために何をしますか？
そのために、あなたが変えたいと願う課題は何ですか？



国際的に通用するMPH・DrPHを目指して —真のグローバルスタンダード—

帝京SPHでは2011年の設立当初より、国際的水準である基本5領域と体系的な学びを実現させてきました。しかし現在、世界では激変する社会情勢と、複雑で解決困難な問題が人々の健康を阻んでいます。そのため、社会を見据えた総合的な力を持つ保健医療専門職を育成する方向に世界でも教育改革が行われています。公衆衛生の専門職も例外ではありません。

転換期にある世界の公衆衛生教育。公衆衛生に強みを持つ日本だからこそ、国際的に通用する人材を育成したい。そこで、帝京SPHは日本で初めてMPH・DrPH教育にコンピテンシー基盤型教育を導入するなど、常に国際的に通用する公衆衛生専門職教育に努めてきました。新しいカリキュラム開発などの先進的な取り組みを進め、日本でのSPH教育をリードしています。

国際的通用性ということ、日本国外に出て活躍することを考えがちです。しかし、国内の地域で取り組む仕事を国際的に発信できる力。世界の人々の生きる知恵になるような日本での成果を広めること。それらも国際的に通用するMPHやDrPH取得者の仕事であるとわたしたちは考えています。

国内外を問わず公衆衛生を実現させる
専門職の育成とその活躍

社会をより良くするために
教育を通じて公衆衛生の実現と
社会の変化を目指す

帝京SPHの挑戦は続きます

帝京SPHの教育

Education at Teikyo SPH

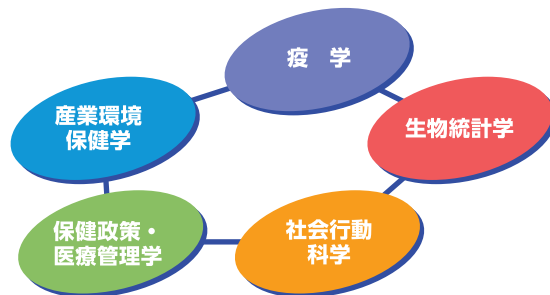
帝京SPHの教育を語る3つのキーワード

■ 基本5領域・問題解決型アプローチ・コンピテンシー基盤型教育

帝京SPHの教育を語るにはこの3つのキーワードが不可欠です。特徴ある教育を通じて、深く追求する力と幅広い公衆衛生を体系的に学ぶよう、柔軟な実践力を養っています。

(1) 公衆衛生の基本5領域

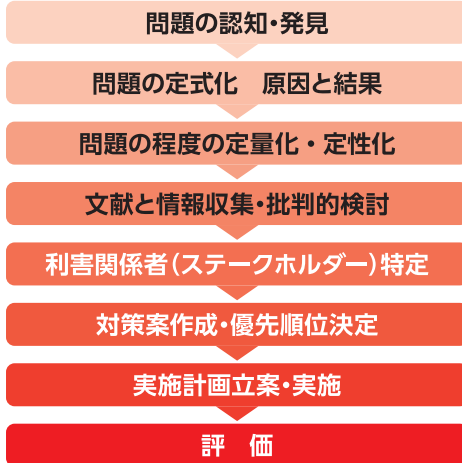
公衆衛生を体系的に学ぶには、国際的に「疫学、生物統計学、産業環境保健学、社会行動科学、保健政策・医療管理学」の5領域が基幹になっています。帝京SPHでは各領域の講義を必修にしています。さらに選択科目を多く設け、基礎的な学びから発展的な探求に対応できるようにしています。



(2) 問題解決型アプローチ

公衆衛生の課題を解決するには、1つのテーマだけに興味を持って、仮説を立ててデータを科学的に分析し、結果を論文などで発表するだけでは足りません。社会問題を取り上げて分析した後、その結果をもとに政策やプロジェクトを企画立案し、実施につなげるよう交渉することが求められます。問題を解決する方法を身につけるために、帝京SPHでは右図の8段階から成る問題解決型アプローチの習得を目指して教育しています。問題を発見して情報を収集し、得たデータを分析するだけではなく、そこで得られた知見に基づき、いかにして問題を解決していくのか、あらゆる方法を考えます。そのときにはステークホルダー分析や医療経済分析が欠かせないこともあります。多角的な側面から問題をとらえ、柔軟な発想で問題解決を考え、そしてそれを評価する能力を身につけていきます。

科学的根拠のその先へ



(3) コンピテンシー基盤型教育

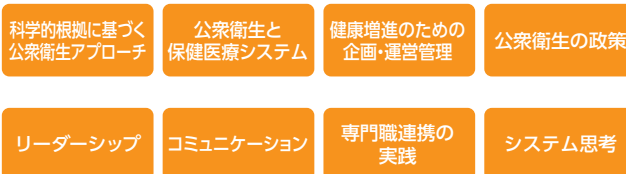
社会を変える人 (Change Agent) を育てる。それは公衆衛生の分野でも、広く私たち社会全体でも求められています。日本でも世界でも、人々の健康を守り維持するためには多くの課題があります。健康にかかわる人も医療従事者だけではなく、ときには行政、住民、民間企業、NGO、政治家などを巻き込んだ問題解決も必要であり、多くの人々と対話してより健康的な社会にする方策を議論する必要もあります。こうなると科学的知識や学術的素養だけでは公衆衛生の専門家育成はできません。そこにはコミュニケーション能力や、リーダーシップ、社会を動かす力 (アドボカシー) も必要でしょう。

保健医療の課題を解決するために、ときには法律や政策を変える必要があるかもしれません。なんらかの健康にかかわるプログラムを企画しなくてはならないこともあるでしょう。現在の価値観が多様化する中で、多くの人になるべく個人の自由を奪わずに健康的な行動を選んでもらう方法はあるのでしょうか。

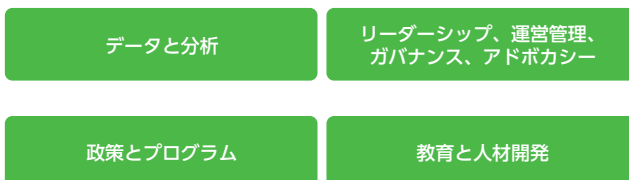
社会を変えよう人材育成。そこで注目されているのが、コンピテンシー (すなわち、高い能力を持つ人が備えている資質) を鍛える教育です。

MPHとDrPHのコンピテンシー

MPH



DrPH



帝京SPHの教育

Education at Teikyo SPH

Change Agent 導き、動かす人であれ

専門職大学院として帝京SPHが大事にするのは、自ら問題を見出し、そして解決しようという主体性です。帝京SPHではMPHとDrPHにふさわしい5領域の体系的な学び、問題解決型アプローチ、コンピテンシー取得を支えるために、教育にも工夫をしています。



講義だけではない「実務で活かせる」学び

各授業では、講義を受けて試験を受けるだけではなく、小グループでの作業や課題、ディスカッションを通じた議論、ケースに基づく検討など多様な教育手法で講義を構成しています。実習や演習、インターンシップといった科目を通じて、フィールドでの実践的な学びに取り組むことができます。ひとつのテーマを深く追求する力と、公衆衛生の基本5領域をはじめとして分野横断的な側面を知る姿勢。深く掘り下げる「縦の力」と幅広い素養を併せ持った「横に広がる力」は両方とも重要です。公衆衛生でもその高度専門職育成にはこうしたいわゆるT字型の人材を育成することが重要です。それが、TeikyoのT。帝京SPHが目指すT字型の専門職です。

あなたの道は続くから 在学中もその後も、あなたを励ます仲間たち

大学院生どうしのつながり バックグラウンドも多種多様

毎年、多様なバックグラウンドの学生が入学しています。医師、保健師、助産師、看護師、薬剤師、管理栄養士などの保健医療従事者と共に、法律や経済、行政、マーケティング、国際開発、環境など、異なる専門や経験を持つ同期生がいます。様々な経験を積んだ大学院生にとっては、同じ課題も別の視点から眺めていることがあり、多様な視野の持ち主である学生どうしの交流そのものにも意味があります。そしてこれまでの自分の仕事だけでは知りえなかった多様な仲間がかけがえのないものです。

学生は授業での課題や試験を乗り越えるため、自主勉強会などを行い、切磋琢磨しています。中には働きながら学ぶ人、育児や介護をしながら学ぶ人もいます。多忙な学生生活を共に過ごして培った大学院生どうしのつながりも帝京SPHの成果です。

同窓会

2013年に帝京SPH同窓会が発足しました。年に数回の同窓会とキャリアに関する座談会を行っています。各種同窓会イベントやホームページ・SNSを通じて、MPH・DrPH取得者にできることを実践し、修了後も大学院を支えてくれる頼もしい存在です。帝京SPHでは在学中に共に学んだ同期生はもちろん、多くの修了生ともつながる場があります。これからも増えゆく修了生。修了後も「公衆衛生」を軸に一生涯つながりつづける仲間との出会い。こうした結びつきの強さも帝京SPHの魅力のひとつです。

修了生の進路

国家公務員、地方公務員、臨床系（病院や診療所）、産業保健（産業医・産業保健師）、民間企業（製薬企業、化学品・医薬品企業など）、国際保健（JICA、NPO）、教育・研究（大学教員、研究員）、進学（博士課程、海外留学）など

同窓生のことば

専門職学位課程公衆衛生学専攻2020年度修了生（9期生）

黒田 藍さん

行政保健師として働く中で、保健活動のプロセスや成果をうまく評価できず、本当に住民の健康を守る仕事ができているのだろうか、ともやもやした思いを抱えていました。この気持ちを何とかしたい！そう思って入学したのが、帝京SPHでした。

帝京SPHでは、「問題解決型アプローチ」という考え方を基に、公衆衛生上の課題に取り組む一連のプロセスを学びました。「問題は何か」「その要因は何なのか」「ステークホルダーは誰なのか」。課題研究などを通じて常に意識しながら取り組むことで、入学前に抱えていたもやもやが少しずつ晴れ、保健活動のプロセスや成果の評価を真に実践する力を身に付けることができた実感しています。

これらの学びの中で改めて気づいたことは、

- ・地域の課題解決方法は、地域の中にある
 - ・課題解決には、ステークホルダーと専門職が共に考え、取り組む姿勢が重要である
 - ・専門職は、エビデンスに基づいた知識とアプローチ手法を持って関わってこそ、地域全体の健康づくりやエンパワメントに寄与できるということです。
- 学びは市町村保健センターでの仕事にも活かしています。保健活動のプロセスを見える化し、活動評価を進めたことで、活動に関わる保健師自身もエンパワメントしあえる風土が醸成され、住民にもより笑顔が見られるようになったと感じます。

単に「研究をする」のではなく、いかに現場でより良い「公衆衛生活動を実践する」か。その考え方や手法を学べるのが、帝京SPHだと思います。



公衆衛生 基本5領域

Five Core Areas in Public Health

公衆衛生を体系的に学ぶ

帝京SPHでは、公衆衛生の基本5領域にその道の専門家を配置すると共に、外部の実務家や他大学の専門家を客員教員や非常勤講師として協働して指導にあたっています。MPH約50科目、DrPH約40科目あります。

疫学

SPHの教育の目的は人々の集団の健康問題を解決する能力を育成することで、問題解決が成功するためには動や経験ではなく科学的方法に立った研究が必要です。そこでまず解決すべき問題は何かを考え、次にその問題の原因を解明してどこに介入すべきなのかを確認します。言い換えると、仮説をたて、それを検証するための研究デザイン、データの収集と解釈を理論的かつ実践的に行うのが問題解決のプロセスで、その方法論を学ぶのが疫学です。

科目	MPH 基礎疫学、臨床疫学、質的研究、スタディクリティーク、リスク科学、ハーバード特別講義（疫学）
	DrPH リスク科学特論、疫学・生物統計学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

生物統計学

わが国において生物統計学の専門家は圧倒的に不足しており、臨床試験の実効性を担保するための臨床試験統括医師・看護師についても国際的なレベルからは十分な人材が確保できているとは言えません。また統計以外の研究者が観察研究などで得られたデータの解析を行う場合、解析法の選択や多変量解析結果の解釈が困難な状況に直面することが多いものです。本領域では、統計学の基本から専門的な統計手法を駆使し、試験計画を立案して結果を科学的に解析・評価できる知識と技術を、演習を踏まえて習得していきます。

科目	MPH 基礎生物統計学、応用生物統計学、データ解析演習、臨床試験概論、社会調査データ解析概論、社会調査データ解析演習、ハーバード特別講義（生物統計学）
	DrPH 統計モデル特論、臨床試験特論、カテゴリカルデータ解析特論

社会行動科学

私たちの健康や行動は、さまざまな社会・経済・文化・環境的要因の影響を受けています。そのような健康の社会的決定要因とメカニズムを理解するために社会行動科学の基本的な知識を身につけるとともに、多様な個人や集団に、適切な公衆衛生情報を伝え、その理解と行動を効果的に促すヘルスコミュニケーションの方略を学びます。あわせて、関係者とビジョンを共有し、チームで協働できる人材の育成を目指します。

科目	MPH 健康行動科学概論、健康教育学、社会疫学、ヘルスコミュニケーション学、終末期医療実習、ハーバード特別講義（社会行動科学）
----	---

産業環境保健学

私たちは様々な環境に囲まれて生活しています。その環境が人間に及ぼす影響をとらえるのが産業環境保健領域です。働くときの環境というものも公衆衛生では長い研究と活動の歴史があります。有害物質を扱う職場や職場の安全の課題。それ以外にも技術革新と産業構造の変化に伴う作業形態や雇用の多様化、心理的ストレスなど扱う課題が増えており、調査研究と共に産業保健の現場で活かせる実務能力を養います。

科目	MPH 産業環境保健学概論、産業保健学、環境保健学、産業看護マネジメント論、産業精神保健学演習、産業環境保健学実習、ハーバード特別講義（産業環境保健学）
	DrPH 産業保健学特論、産業環境工学特論、産業中毒学特論、環境保健学特論Ⅰ・Ⅱ、産業保健統括管理学特論、産業環境保健学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

保健政策・医療管理学

本領域では将来の保健政策・医療管理のリーダーを養成することを目的としています。国際競争・公衆衛生上の脅威・高齢化社会に直面する現在では、本領域の専門家は大いに求められる人材です。高度専門家としては科学的根拠に基づいて公衆衛生に関する意思決定を、自信をもって下す能力が必要です。本領域では保健政策・医療管理を網羅的に学ぶことができます。

科目	MPH 保健政策・医療管理学概論、ヘルスポリシー概論、医療経済学、医療保障政策論、地域保健学、国際保健学概論、国際保健学演習、国際母子保健学、国際保健学実習、ヘルスデータ分析入門、医療管理学・安全管理学概論、リーダーシップ・マネジメント論、医療経営学演習、医療管理学実習、Healthcare Management、Universal Health Coverage & Aging Society、ハーバード特別講義（保健政策・医療管理学）
	DrPH 保健政策学特論、医療経済・経営学特論、医療経済分析特論、国際保健政策学特論、保健政策・医療管理学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

共通科目

各領域の理解と公衆衛生の分野横断的な学びに役立つ科目を開講しています。4月の集中講義で行う調査・研究法概論では、短期間で研究の素養を一通り学び、その後の特殊研究や課題研究に活かしています。

科目	MPH 公衆衛生倫理学、医学基礎・臨床医学入門、調査・研究法概論、健康医療情報学、インターンシップ
----	---

専任教員

Faculty members

(●●●●● 担当 領域)

石川 ひろの 教授 ●● (ヘルスコミュニケーション学・行動科学)

医療・公衆衛生における様々なコミュニケーションの理論と方略を学び、個人や集団を健康に向けて動かすより効果的なアプローチを考えてみませんか。

今井 博久 教授 ●● (薬剤疫学・生活習慣病疫学)

新しい自分を見つけませんか。古い手法や、他の人のまねではない、あなた独自の新しい公衆衛生学を開拓してください。

大脇 和浩 教授 ● (疫学・臨床疫学)

疫学という学問を通じて、保健医療の現場における様々な疑問に対する答え・問題に対する解決策と一緒に考えていきたいと思えます。

金城 謙太郎 教授 ● (プライマリ・ケア)

プライマリ・ケア(家庭医療・総合診療・在宅医療)、地域包括ケア、多職種連携と幸福の研究を進めます。一緒に新たな扉を開きましょう！

高橋 謙造 教授 ● (国際保健学・地域保健学)

国際地域保健という視点から、地域保健医療、母子保健、感染症対策に取り組みましょう。案ずるなかれ、現場が答えを教えてください。

中田 善規 教授 ●● (医療管理学・保健行政学)

医療・医学は社会との接点が非常に重要な応用科学です。経済学を医療に応用して、人々の健康増進に役立てる研究・教育を目指しています。

福田 吉治 教授 ●●● (産業保健学・行動科学・社会疫学)

公衆衛生の領域で働くためにはSPHで学び、MPHを取得する。日本もそんな世界標準の時代になりました。一緒に公衆衛生を学び、実践しましょう。

松浦 正明 教授 ● (生物統計学)

職場や身の回りにあるデータを解析したいけれども躊躇されてきた方、データ解析の論理と技術を学び、論文作成に挑戦してみませんか？

宮田 敏 教授 ● (生物統計学)

研究目的に沿って適切にデータを収集・解析し、その結果を解釈する一連の方法を勉強します。統計学の基本的な考え方と、実際のデータ解析の手法を一体として学びましょう。

井上 まり子 准教授 ●● (社会疫学・国際保健学)

人々の健康を守る MPH と DrPH の力をもっと社会に。私は、雇用と健康に関する調査を基に社会に合った制度を考え、公衆衛生に取り組んでいます。あなたはどんな課題を解決しますか？

天笠 志保 講師 ●● (運動疫学・行動科学)

人の行動や健康は様々な社会環境要因の影響を受けています。公衆衛生を学び、より良い社会の在り方を一緒に考えていきましょう！

金森 悟 講師 ●● (産業保健学・社会疫学)

SPHには多くの産業保健スタッフが学びに来ています。一緒に企業や社会を動かす存在になっていきましょう！

桑原 恵介 講師 ●● (疫学・予防医学・応用健康科学)

分野を問わず、人々の健康を良くしていきたい情熱を持った方々と共に学んでいきたいと思えます。

渋谷 克彦 講師 ● (産業保健学)

公衆衛生マインドを持った人材の育成を目指しています。これまでの経験を共有し、共に学びましょう。

鈴木 明日香 講師 ● (生物統計学)

今後、医薬品産業で公衆衛生学専門職の活躍の場は広がります。若手、中堅、管理職のいずれでも、他の修士号取得者にもおすすめします。

津田 洋子 講師 ● (環境保健学・産業保健学)

身近な症例を疫学的視点から科学的根拠をもって実践に活用する。SPHで「働く人の健康」を衛る実践家を目指しませんか。

西原 三佳 講師 ●● (地域保健学・国際保健学・社会疫学)

人々の健康を取り巻く課題は多様です。国内外の課題解決に向け、共に学び、取り組んでいきませんか？



MPH課題研究・DrPH特殊研究

MPH capstone project / DrPH research practicum

課題研究・特殊研究

帝京SPHでの学びの集大成として、基本5領域の知識や技能、問題解決型アプローチでの思考と取組、コンピテンシーを高めた活動の報告として総合的な達成度が問われます。

高度な能力を備えた実務家を養成する専門職大学院。そこで授与するMPHとDrPHは科学論文の執筆だけで修了することはできないと考えています。もちろん、大学院生が身につけるべき能力として論文執筆能力を指導し、実際に多くの課題研究と特殊研究の成果が各学会や学術雑誌で報告されています。しかし、その報告で終わるのではなく、実務の中で発生している課題を科学的に検証した後、それをもとにいかにか問題を解決するかを大事にしています。そのための総合的な学びが本学の課題研究と特殊研究です。



課題研究報告会

指導体制

MPH 3段階の指導体制

1. 研究指導教員とアカデミック・アドバイザー

学生が希望するテーマに応じて1名の研究指導教員が担当し、日常的に課題研究を支援します。そして入学当初から、学生生活や履修、進路などを相談する身近な存在として、研究指導教員とは別の教員1名がアカデミック・アドバイザーを担当します。ひとりの学生に2名の教員がついてハードな帝京SPH在学中も支援していきます。

2. サブグループ指導

講座制をとらない、独立型の公衆衛生学研究科ならではの指導方法です。基本5分野からバランスよく教員が分けられ、サブグループを構成します。学生は研究指導教員と同じグループに入り、他の教員・学生と一緒に指導を受けます。多分野の領域の視点からの意見が飛び交うと同時に、他の学生の研究を知ってお互いの研究を高め合います。

3. 全体指導 中間報告・最終報告・審査

日々の研究指導とサブグループ指導の後、7月の中間報告、12月の最終報告が行われます。帝京SPH教員と学生が一同に介し、報告を行い、質疑応答を行います。課題研究報告書を提出して最終審査を受けます。

DrPH フィールドや職場も指導の場

1. 2名の指導教員

テーマに応じた主・副担当の2名の教員が研究指導にあたります。

2. ドクターズ・セミナー

進捗状況を報告するセミナーです。MPHのグループ指導同様に、5分野の教員が参加して多様な視点での意見交換を行います。MPHの学生にとっては、DrPHの学生の活動報告で現場の話を聞く機会にもなっています。

3. 計画審査、中間審査、学位審査

研究やプロジェクトの計画段階の審査と、研究成果報告の中間審査、そして最後に外部からの委員を含む審査委員による学位審査が行われます。

DrPHの学生は働きながら学ぶ人がほとんどで、実務の中で見出した問題を解決すべく、科学的分析能力と共に実務家としての高い専門能力を身につけています。専門職大学院での博士号授与者として、社会を動かす指導的な専門職（Change Agent）の育成を目指します。

MPH課題研究 修了生のテーマの一部をご紹介します。多様な課題に取り組んできました。

- ・ 新型コロナウイルス感染症陽性者の精神的健康改善の支援に関する検討
- ・ 東京都北区保健所新型コロナウイルス電話相談内容分析による電話相談業務改善案の検討
- ・ 感染症専門医の非常勤勤務による抗菌薬適正使用への貢献並びに新型コロナウイルス感染症流行の影響
- ・ 重傷外傷患者に対するドクターカーの有効性に関する検討
- ・ 後ろ向きコホート研究による大腿骨近位部骨折の生命予後因子の探索
- ・ 大規模企業法人における産業看護職の雇用状況と健康経営の認定との関連
- ・ 医療保険者における糖尿病予防対策の在り方について
- ・ 男性同性愛等におけるHIV有病関連因子の検討と有病予測モデルの試行
- ・ 路上生活者におけるNPO団体の抱える課題
- ・ パナアツ共和国思春期児の栄養不良の二重負荷と生活習慣の関連についての探索

帝京SPHの1年

Annual schedule at Teikyo SPH

専門職学位課程(MPH)の1年

a 学期 4-6月	b 学期 6-8月	S 学期 夏季	C 学期 9-11月	W 学期 冬季	d 学期 11-3月
授業・課題研究					
・入学式 ・オリエンテーション ・グループ指導	・グループ審査 ・計画報告会	・実習 ・インターンシップ ・国際サマースクール	・グループ指導・審査 ・中間報告会	・ハーバード特別講義 ・実習	・最終報告会 ・最終報告書提出

修了式

毎年4月の新年度の初日に、終日かけてのオリエンテーションと海外からのゲストによる講演会が開催され、帝京SPHの1年が始まります。

まずはアカデミック・アドバイザーとの面談で興味のあるテーマを伝え、4月下旬に課題研究指導教員が決まります。前期にあたるa・b学期に必修の講義を集中して受けながら、課題研究の研究計画をたてます。この過程でサブグループの審査を受け、多様な先生方や学生の意見も受けながら研究計画を改善します。

7月に計画審査会が行われた後、教員と学生全員の前で研究計画の進捗を報告します。主に夏季から9月ごろまでに調査を行い、課題研究をまとめていきます。後期にあたるc・d学期には経過報告をサブグループで行い、11~12月にサブグループで最終審査を受けたのち、12月の最終報告書提出まで指導が続きます。年明けにはハーバード特別講義に出席しながら、課題研究の修正や学会発表・投稿論文の準備、研究の成果を用いた活動計画などを進めていきます。研究成果は国内外の学会で発表することを推奨し、その後の論文執筆にもつなげています。

1年にわたる講義と実習、課題研究の実施・指導の合間に、キャリアセミナーや外部講師による各種セミナーなどが行われます。キャリアセミナーでは、MPH・DrPH取得者が活躍する領域の専門家のキャリア形成の話を学びます。

課題研究のグループ指導・審査、報告会、ハーバード特別講義などについて、オリジナルサイトに様子を掲載しています。

<http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~tsph>



新年度オリエンテーション



ハーバード特別講義 ハーバード大学Kawachi先生



サブグループでの発表会



国際サマースクールの様子



国際保健学演習での外務省訪問

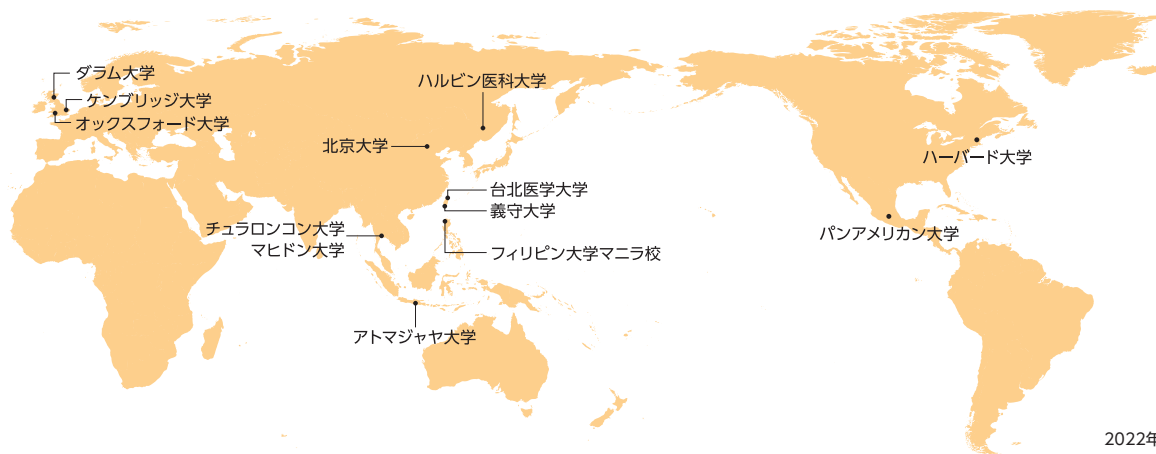
帝京SPHの国際展開

Global Network of Teikyo SPH

グローバル社会 生きぬく力×広がる見方

世界がもっと身近になる。帝京の海外ネットワーク

帝京大学は大学の教育指針に「国際性」を掲げています。世界と日本の公衆衛生の課題に垣根が失われつつある現在、グローバル社会にあっても自ら働きかけるような力をもった専門職を育成するため、国際的な活動や海外の提携校との交流を行っています。国際社会で活躍する人づくり、国際的に評価が高い国内での活動を世界に発信できる人づくりを目指しています。



2022年4月現在

ハーバード特別講義

帝京SPHでは開学以来、毎年1月にハーバード特別講義を行っています。公衆衛生の基本5領域から1名ずつハーバード大学の教授を招いて行う集中講義で、学生にとっては履修科目の一部です。同じく学術提携校である英国のオックスフォード大学、ケンブリッジ大学、グラム大学からの教授が担当する年もあります。

担当教授たちは世界で活躍する各専門分野の第一人者。社会疫学のIchiro Kawachi教授、誰でも教科書を目にする疫学のKenneth Rothman教授、生物統計学のNan Laird教授やGarrett Fitzmaurice教授、英国コクランセンター理事でもあるMartin Burton教授など、著名な教授の集中講義を受けるため、日本でも学外からの科目等履修生を受け入れ、アジアの学術提携校からも参加者が集まってきました。現地の教室の雰囲気そのままに、小グループ学習あり、ディスカッションあり。多様な参加者との討論を通じて、世界の公衆衛生を高める力を養います。

過去のハーバード特別講義の先生方

疫学： Julie Buring, Kenneth Rothman, Martin Burton ¹⁾, Andrew Farmery ¹⁾, Effrossyni Gkrania-Klotsas ²⁾, Murray A. Mittleman
生物統計学： Ken Stanley, Nan Laird, Marcello Pagano, Garrett Fitzmaurice
保健政策学： Norman Daniels, Alastair Gray ¹⁾, David Hunter ³⁾
産業環境保健学： Douglas Dockery, Peter Baxter ²⁾, David Christiani, Stefanos Kales, Rose Goldman, Philippe Grandjean
社会行動科学： Ichiro Kawachi

数字付の5名以外は全てハーバード大学
1) オックスフォード大学
2) ケンブリッジ大学
3) グラム大学

帝京-ハーバードシンポジウム

ハーバード大学との学術提携を1993年に結んでから、2~3年に一度、共同で国際シンポジウムを開催してきました。その時々最新の知見や問題意識を共に共有し、成果を広く社会に発信しています。

	年	テーマ	開催地
第1回	1994	21世紀の職場・健康・医療	東京
第2回	1996	職場の環境と健康	ボストン
第3回	1998	医療と保健における評価・EBMを目指して	東京
第4回	2000	高齢化と健康・環境、労働、そして行動	ケンブリッジ(米)
第5回	2002	遺伝科学、政策、そして公衆衛生	ケンブリッジ(英)
第6回	2006	災害に備えその被害を最小に	ボストン
第7回	2009	The Healthy Hospital	東京
第8回	2012	医師の役割:過去・現在・未来	グラム(英)
第9回	2014	公衆衛生の新しい大学院教育	ボストン
第10回	2016	過去をしのぐ未来へ: 社会を変える保健医療専門職の力	東京
第11回	2019	アジアと世界における ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC) のための持続可能な保健医療システム強化	バンコク



第11回帝京-ハーバードシンポジウム(バンコク)の様子

帝京SPHの国際展開

Global Network of Teikyo SPH

国際サマースクール

夏学期中の7月には、国内外の学生を受け入れて英語で行う集中講義、国際サマースクールが開催されます。2017年に開始したこのサマースクールは、約10日間で2つのコース「Seminar on Healthcare Management」、[Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society]を開講しています。2つとも講義だけではなく、クラス全体のディスカッションや小グループによる学習と発表を行います。講義中は、国際色豊かなクラスメートと共に過ごし、コミュニケーション能力、国際性、問題解決能力を高めます。日本を事例にして公衆衛生を学ぶため、病院、高齢者施設、保健所など実践の場への訪問も通じて理解を深めています。講義後は、学生どうしで地元の商店街や都内各所に出かけ、文化も含めて日本社会とその保健医療制度を学んでいます。



アジアと世界とつながる

ハーバード特別講義や国際サマースクールのため、帝京SPHには世界から学生が集まります。北京大学、ハルビン医科大学、インドネシア大学、フィリピン大学マニラ校、チュラロンコン大学、マヒドン大学、台北医学大学などアジアの学生が中心です。国際サマースクールは、米国南カリフォルニア大学の国際保健学修士課程の海外コースでもあり、同校から毎年10名の学生が参加します。

研究・実習フィールド 日本の地域を、そして世界を歩く

公衆衛生のフィールドはさまざまな領域に存在しています。国際機関や行政組織の働き、医療機関などでの臨床現場、製薬企業などの民間企業の仕事、地方自治体やNGOなどによる地域コミュニティ活動もあります。どの立場でも、帝京SPHの学生は、公衆衛生のフィールドに飛び出して活動し、研究につなげています。それは、国内の地域の取り組みでも、海外の世界のフィールドの活動でも同じことです。国内外この活動も研究も、MPHの課題研究やDrPHの特殊研究の成果として社会に役立てるように取り組んでいます。

各種実習・演習やインターンシップも実践力を養う良い機会です。フィールドで培った力と大学で得た知識・技能をあわせてMPH・DrPHの総合力を養っています。

学生が研究・実習を行った海外のフィールド

中国、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、ラオス、パラグアイ、ウガンダ、ザンビア、マダガスカル、マラウイ

インターンシップ先

国際機関 (WHO, ILO, UNFPA)、厚生労働省、地方自治体、国際協力機構 (JICA)、国民健康保険中央会、東京都健康長寿医療センター研究所

一人のフィールドでの経験がみんなのものになる

一人で行う公衆衛生の活動は限られています。しかし、様々な国内外の場で同じような活動をしている仲間がいたらどうでしょう。帝京SPHでは、国内外のフィールドで公衆衛生活動や研究を行う在校生、修了生、教員が情報交換して学びあう機会と場があります。

「公衆衛生を、やる。」

日本でも世界でも。それが帝京SPH

専門職学位課程(MPH)の概要

学 位：公衆衛生学修士(専門職) Master of Public Health (MPH)

修業年限：2年コース(入学定員20名)

1年コース(入学定員10名) ※ 1年コースは実務経験者を対象にしています。

博士後期課程(DrPH)の概要

学 位：博士(公衆衛生学) Doctor of Public Health (DrPH)

修業年限：3年

入学定員：6名

養成分野：疫学・生物統計学分野／産業環境保健学分野／保健政策・医療管理学分野(国際保健学含む)

受験資格：修士の学位または専門職学位を有する者

※ 経営学修士(MBA)や公共政策修士(MPP)等の非医療系出身者も含む。

MPH、DrPHともに、働きながら学ぶことができます。

また、事前の審査が必要ですが、長期履修制度により、同じ学費で長期間かけて修了する制度もあります。

帝京大学大学院 社会医学系専門医プログラム

MPHやDrPHを取得しながら社会医学系専門医の専門研修を行います。(大学院に入学せずにこのプログラムのみでの研修も可能です。)

応募資格：初期臨床研修修了者、修了予定者

帝京大学 産業保健高度専門職養成の大学院プログラム

産業保健に関する学び直しやキャリアアップのために、社会人対象の産業保健高度人材養成のための履修証明(学校教育法に基づく)プログラムがあります。

募集対象：主に産業保健の専門職 入学定員：約10名

帝京SPHの最新情報は
こちらから
ご覧いただけます。

オリジナルサイト <http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~tsph/>

Facebook <https://www.facebook.com/teikyoSPH/>

Twitter https://www.twitter.com/teikyo_sph



オリジナルサイト



交通アクセス

最寄り駅から板橋キャンパスまでの所要時間

- JR埼京線「十条駅」より 徒歩約10分
- 都営三田線「板橋本町駅」より 徒歩約12分
- JR埼京線「板橋駅」・京浜東北線「王子駅」より「帝京大学病院」行きバスあり

主要駅から十条駅までの所要時間

- 池袋から JR埼京線で約5分
- 新宿から JR埼京線で約10分
- 渋谷から JR埼京線で約16分
- 品川・浜松町から JR山手線にて大崎(乗り換え)JR埼京線で約35分
- 八王子から JR中央線中央特快にて新宿(乗り換え)JR埼京線で約60分
- 大宮から JR埼京線快速で約21分
- 横浜から JR湘南新宿ラインにて池袋(乗り換え)JR埼京線で約50分
- 千葉から JR総武線にて新宿(乗り換え)JR埼京線で約90分

お問い合わせ先

帝京大学板橋キャンパス事務部 教務課大学院担当(公衆衛生学研究科)
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL.03-3964-3294(直通) FAX.03-3964-8396
E-mail tsphgakui@teikyo-u.ac.jp